



2024年6月20日

各位

会社名 株式会社WOLVES HAND
代表者名 代表取締役CEO 北井 正志
(コード番号：194A 東証グロース市場)
問合せ先 取締役CFO 谷内 圭一郎
(TEL 06-6599-9106)

東京証券取引所グロース市場への上場に伴う当社決算情報等のお知らせ

当社は、本日、2024年6月20日に東京証券取引所グロース市場に上場いたしました。今後とも、なお一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくごお願い申し上げます。

なお、2024年6月期(2023年7月1日から2024年6月30日)における当社の業績予想は以下のとおりであり、また、最近の決算情報等につきまして別添のとおりであります。

【連結】

(単位：百万円、%)

	2024年6月期 (予想)			2024年6月期 第3四半期累計期間 (実績)		2023年6月期 (実績)	
		対売上高 比率	対前期 増減率		対売上高 比率		対売上高 比率
売上高	5,048	100.0	8.5	3,523	100.0	4,651	100.0
営業利益	863	17.1	7.5	516	14.7	803	17.3
経常利益	830	16.5	3.8	508	14.4	800	17.2
親会社株主に帰属する 当期(四半期)純利益	546	10.8	7.9	310	8.8	506	10.9
1株当たり 当期(四半期)純利益	73円53銭			41円80銭		68円17銭	
(参考)調整後 親会社株主に帰属する 当期(四半期)純利益	548	10.9	8.4	296	8.4	507	10.9
(参考)調整後1株当たり 当期(四半期)純利益	73円90銭			40円00銭		68円42銭	
1株当たり 配当金	0円00銭			-		0円00銭	

- (注) 1. 2023年6月期(実績)及び2024年6月期第3四半期累計期間(実績)の1株当たり当期(四半期)純利益は期中平均発行済株式数により算出しております。
2. 2024年6月期(予想)の1株当たり当期純利益は公募予定株式数(50,000株)を含めた予定期中平均発行済株式数により算出しております。
4. 調整後当期(四半期)純利益を、以下により算出しております。
調整後親会社株主に帰属する当期(四半期)純利益
= 親会社株主に帰属する当期(四半期)純利益+上場関連費用-特別利益+特別損失-法人税等調整費用
5. 上場関連費用とは、上場審査に係る費用、上場準備に伴う主幹事証券会社へのアドバイザー費用、目論見書印刷費用等、上場に伴う一時的な費用であります。
6. 法人税等調整費用は上場関連費用の調整による課税所得の増加に伴う法人税等費用であります。
7. 調整後親会社株主に帰属する当期(四半期)純利益は、当社が、投資家にとって当社の業績を評価

するために有用であると考える財務指標であり、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査の対象とはなっておりません。当該財務指標は、上場後には発生しないと見込まれる上場関連費用等の非経常的な費用項目（通常の営業活動の結果を示していると考えられない項目）の影響を除外しております。調整後親会社株主に帰属する当期（四半期）純利益は、親会社株主に帰属する当期（四半期）純利益に影響を及ぼす項目の一部を除外しており、分析手段としては重要な制限があることから、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき表示された他の指標の代替的指標として考慮されるべきではありません。当社における調整後親会社株主に帰属する当期（四半期）利益は、同業他社の同指標又は類似の指標とは算定方法が異なるために、他社における指標とは比較可能でない場合があります、その結果、有用性が減少する可能性があります。

<調整後親会社株主に帰属する当期(四半期)純利益及び調整後1株当たり当期(四半期)純利益の調整表>
(単位:百万円)

	2024年6月期 (予想)	2024年6月期 第3四半期累計期間 (実績)	2023年6月期 (実績)
親会社株主に帰属する 当期(四半期)純利益	546	310	506
(調整額)			
+上場関連費用	24	1	—
-特別利益	▲22	▲22	▲0
+特別損失	1	1	3
-法人税等調整費用	▲1	5	▲0
調整後親会社株主に帰属する 当期(四半期)純利益	548	296	507
調整後1株当たり 当期(四半期)純利益	73円90銭	40円00銭	68円42銭

【2024年6月期業績予想の前提条件】

1. 当社全体の見直し

当社グループは、生き物の命を救い、守り続けることを唯一の目的とする「Animal is my life」を企業理念として掲げ、絶えず高度な知識や技術の習得に努め、動物医療の発展に寄与することを通じて、「人と変わらない幸せを動物たちに届けたい」及び「世界最先端の動物医療を実現したい」並びに「動物と社会が隔たりなくつながる世の中を実現したい」を使命として事業に取り組んでおります。

現在、当社グループは、当社、連結子会社である株式会社ペットメディカルセンター・エイル、株式会社モデナ動物病院及び株式会社ペット・ベツト並びに持分法適用関連会社である飛鳥メディカル株式会社により構成されており、動物医療業界において、かかりつけから高度医療までを含む総合的医療サービスを提供する事業を主として行うとともに、ペットサロンの運営、動物病院向けソフトウェアの開発、獣医療教育セミナーの配信に関する事業といった関連事業を行っております。

近年の動物医療を取り巻く環境としましては、ペットのコンパニオンアニマル化や長寿命化の進展、高額医療に備えたペット医療保険の普及拡大等に伴い、ペット1頭当たりの医療費は増加傾向にあり、ペット（犬・猫）飼育頭数が横ばいしないしは微減の傾向にあるにもかかわらず、市場規模は拡大傾向にあります。

かかる環境下で動物病院数及び獣医師数ともに増加の傾向を示しておりますが、依然として、動物病院の8割以上は獣医師数2名以下の一次診療（かかりつけ病院による診療や処置）が主体の小規模病院であり、安定した病院運営を行い、設備投資が必要な高度医療を提供できる施設が十分にあるとは言えません。

このように、飼い主の高度医療に対するニーズが増大する一方で、利用者ニーズに十分に答えることができる高度医療サービスを提供可能な獣医師及び施設が不足しており、高度医療に携わる獣医師の臨床教育や医療技術の向上の機会が限られていることが、動物医療業界における重要な課題であると当社グループは認識しております。

こうした環境の中、当社グループは「持続的運営が可能な組織的動物病院経営モデルの確立」を経営の基本方針として掲げ、一次診療と二次診療（専門的で高度な設備を用いた検査や手術）のいずれかに特化するのではなく、爪切りなどの身近なケアからCTやMRI、放射線治療装置を備えた高度医療を含む総合的な動物医療サービスをシームレスに提供できる体制を整えていることを特徴としております。また、人材育成の観点からも、一次診療の基礎から二次診療に必要な高度医療までの臨床経験をグループ内で積むことが可能であるため、高度医療に必要な知識や技術を身につけた獣医師の社内育成が可能な環境となっております。

当社グループでは、動物病院を組織化し、医療知識の蓄積及び人材育成を戦略的に行うことにより、動物病院の持続的な運営を可能にすると同時に、動物医療業界における高度医療提供施設及び人材の不足という課題の解決が可能と考えており、この経営モデルを展開していくことを基本方針としております。

このような基本方針の元、当社グループは事業承継等の機会も積極的に活用し、関西エリア、関東エリア、九州・沖縄エリアの3エリアにおいて、拠点を展開してまいりました。

2024年6月期におきましては、当社グループが推進している持続的運営が可能な組織的動物病院経営モデルの基盤をより確固たるものとするため、獣医師、愛玩動物看護師、トリミングスタッフ等の人材あってこそその動物病院経営であるというヒューマンビジネスの原点に立ち返り、従業員の満足度を高めるための様々な内的な施策を実施する他、新卒、中堅社員等、それぞれの経歴に応じたOJTの実施による人材教育にも注力しております。これらの基本的な施策を着実に実施することが、もって顧客満足度の向上につながり、当社グループの収益拡大につながるものと考えております。

このような取り組みを進めた結果、当社グループの診療施設は概ね良好な稼働状況となっており、足元の業績は堅調に推移しております。

以上より、当社グループの2024年6月期の通期見直しは、売上高5,048,183千円（前期比8.5%増）、営業利益863,452千円（前期比7.5%増）、経常利益830,918千円（前期比3.8%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は546,085千円（前期比7.9%増）と見込んでおります。

2. 業績予想の前提条件

（1）売上高

当社グループの売上高の約95%は動物病院事業の売上高により構成されております。動物病院事業の売上高は、獣医師数と獣医師1人当たり売上高に基づき予想しております。獣医師数は人員計画に基づき、2024年6月期の年間平均在籍数を90名（前年度は90名）と見込み、獣医師1人当たり売上高にしましては、大幅な経営環境の変化がないことから、診療件数及び診療単価の過年度実績をベースに設定し

ております。その他の事業は、レセコンシステムである「わん太郎」の売上及び子会社の株式会社ペット・ベットのVMN（小動物臨床獣医師向けに、さまざまな情報を提供するサイト「VMN:Veterinary Medical Network」<https://www.vmn.ne.jp/>）事業の売上であり、経営環境に大幅な変動がないため、過年度実績と同水準で推移するものと予想しております。

2024年6月期におきましては、既述のとおり診療件数及び診療単価の過年度実績をベースに売上高を予想しておりますが、2023年6月期中途で取得した連結子会社である株式会社ペットメディカルセンター・エイル及び株式会社モデナ動物病院の収益が通年で取り込まれるため、売上高については増収を見込んでおります。

なお、動物病院業界では、狂犬病ワクチンの接種やノミ・フィラリア薬等の購入が集中する3月から6月にかけて来院数が大幅に増加し、繁忙期に当たります。従って、当社グループにおいても、第4四半期に売上高及び営業利益が偏重する傾向があり、業績予想においては、当該季節的変動を診療件数の予測に織り込んで考慮しております。

以上を踏まえ、2024年6月期の売上高は5,048,183千円（前期比8.5%増）を見込んでおります。

（2） 売上原価

売上原価は、原材料費、労務費及びその他の経費に区分して予想しております。

原材料費は、医薬品及び治療に用いる医療用消耗品費等が含まれており、売上高と連動致します。よって、過去の対売上高比率を基礎として予想しております。

労務費についても、拠点ごとの獣医師数を基礎として必要人員を配置することから、売上高と連動致します。よって、過去の対売上高比率を基礎として予想しております。

その他の経費につきましては、拠点ごとの過年度実績に基づき、変動費と固定費に区分の上で予想しております。変動費は過去の対売上高比率を基礎とし、固定費は過年度実績に基づき予想しております。

以上を踏まえ、2024年6月期の売上原価は3,626,258千円（前期比7.7%増）を見込み、売上総利益は1,421,925千円（前期比10.6%増）を見込んでおります。

（3） 販売費及び一般管理費、営業利益

販売費及び一般管理費は、各拠点において費目ごとに積み上げて予算を策定しております。主な費目の前提条件は次のとおりです。

人件費につきましては、役員報酬、管理人材の人件費等を踏まえて見込んでおります。のれん償却費につきましては、償却スケジュールに基づいて見込んでおります。租税公課につきましては、上場時の資本金増加を踏まえて見込んでおります。

以上を踏まえ、2024年6月期の販売費及び一般管理費は558,472千円（前期比15.8%増）を見込み、営業利益は863,452千円（前期比7.5%増）を見込んでおります。

（4） 営業外損益、経常利益

営業外収益の主なものは、受取りべートであります。受取りべートにつきましては、過年度実績に基づき計画しております。

営業外費用の主なものは、支払利息、持分法投資損失及び上場関連費用であります。支払利息につきましては、借入金の返済スケジュールに基づく残高と借入利率に基づいて見込んでおります。持分法投資損失につきましては、飛鳥メディカル株式会社の予算に基づき、現状はのれん相当額の償却が先行することを踏まえて見込んでおります。上場関連費用につきましては、発生が見込まれる費用を個別に見積り、積み上げにより24,858千円を予算化しております。

以上を踏まえ、営業外収益は16,185千円（前期比7.0%減）を見込み、営業外費用は48,719千円（前期比145.5%増）を見込んだ結果、経常利益は830,918千円（前期比3.8%増）を見込んでおります。

（5） 特別損益、親会社株主に帰属する当期純利益

特別利益に関しましては、当社動物病院の近隣再開発に伴う移転により、移転補償金22,447千円を受領する見込みであります。また、特別損失に関しましては、動物病院の移転に伴う固定資産の除却損1,426千円の発生を見込んでおります。

以上の結果、税金等調整前当期純利益は851,939千円（前期比6.7%増）を見込み、法人税等を差し引き、親会社株主に帰属する当期純利益は546,085千円（前期比7.9%増）を見込んでおります。

【業績予想に関するご留意事項】

本資料に記載されている当社の業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

以上



2024年6月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2024年6月20日

上場会社名 株式会社WOLVES HAND 上場取引所 東
コード番号 194A URL <http://wolveshand.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役CEO (氏名) 北井 正志
問合せ先責任者 (役職名) 取締役CFO (氏名) 谷内 圭一郎 TEL 06 (6599) 9106
経営管理本部長CFO室長
四半期報告書提出予定日 - 配当支払開始予定日 -
四半期決算補足説明資料作成の有無: 無
四半期決算説明会開催の有無: 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年6月期第3四半期の連結業績(2023年7月1日~2024年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年6月期第3四半期	3,523	-	516	-	508	-	310	-
2023年6月期第3四半期	-	-	-	-	-	-	-	-

(注) 包括利益 2024年6月期第3四半期 310百万円 (-%) 2023年6月期第3四半期 一百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
2024年6月期第3四半期	円 銭 41.80	円 銭 -
2023年6月期第3四半期	-	-

(注) 1. 当社は2023年6月期第3四半期累計期間については四半期連結財務諸表を作成していないため、2023年6月期第3四半期の数値及び対前年同四半期増減率並びに2024年6月期第3四半期の対前年同四半期増減率については記載しておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、当社株式は2023年6月期第3四半期連結会計期間末において非上場であり、期中平均株価が把握できないため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年6月期第3四半期	5,489	1,830	33.3
2023年6月期	5,452	1,519	27.9

(参考) 自己資本 2024年6月期第3四半期 1,830百万円 2023年6月期 1,519百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年6月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2024年6月期	-	0.00	-	-	-
2024年6月期(予想)	-	-	-	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

3. 2024年6月期の連結業績予想（2023年7月1日～2024年6月30日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,048	8.5	863	7.5	830	3.8	546	7.9	73.53

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

（4）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年6月期3Q	7,924,000株	2023年6月期	7,924,000株
② 期末自己株式数	2024年6月期3Q	500,000株	2023年6月期	500,000株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年6月期3Q	7,424,000株	2023年6月期3Q	一株

（注）1. 当社は、2023年6月期第3四半期累計期間については四半期連結財務諸表を作成していないため、2023年6月期第3四半期の期中平均株式数は記載しておりません。

2. A種種類株式は剰余金の配当請求及び残余財産の分配請求について普通株式と同等の権利を有しているため、「期末発行済株式数（自己株式を含む）」及び「期中平均株式数（四半期累計）」には、A種種類株式を含めております。

3. 当社は、2024年1月30日開催の取締役会において、A種種類株式のすべてについて、定款に定める取得条項に基づき取得することを決議し、2024年2月14日付で自己株式として取得し、その対価としてA種種類株式1株につき、普通株式1株を交付しております。なお、当社が取得したA種種類株式のすべてについて、会社法第178条に基づき同日付で消却しております。それに伴い、2024年2月15日開催の臨時株主総会により、2024年2月15日付でA種種類株式に係る定款の定めを廃止しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	3
四半期連結損益計算書	
第 3 四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第 3 四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴う社会経済活動の正常化や、外国人観光客数の急回復に伴うインバウンド需要の高まり、堅調な株式市場等を受けて、国内景気全般に明るい材料が見られた一方、緊迫した国際情勢を受けた経済全般への不透明感や、エネルギー・資源価格の高騰、円安傾向の長期化に起因する国内物価の高騰、国内労働力人口の構造的な減少等、企業を取り巻く外的経営環境の不確実性はますます高まりを見せつつあるものと認識しております。

当社グループが属する動物医療業界におきましては、昨今のコロナ禍におけるペット用品市場の堅調さや、家計のペット向け支出が拡大傾向にある中、ペットの家族化、高齢化を背景にした世帯あたりの動物病院への支出額の増加傾向の基調に変わりはなく、飼い主の動物医療に対する多様化・高度化要請はますます高まっているものと認識しております。

このような情勢のもと、当社グループは、生き物の命を救い、守り続けることを唯一の目的とする「Animal is my life」を企業理念として掲げ、その具現化の一環として、サステナブルな動物病院経営の実現に向け、獣医師、愛玩動物看護師、トリミングスタッフ等の人材あってこそ動物病院経営であるというヒューマンビジネスの原点に立ち返り、従業員の満足度を高めるための様々な内的な施策を実施した他、新卒、中堅社員等、それぞれの経歴に応じたOJTの実施による人材教育にも注力し、これらの基本的な施策を通して、もって顧客満足度の向上を企図した取り組みを行いました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高3,523,301千円、営業利益516,236千円、経常利益508,018千円、親会社株主に帰属する四半期純利益310,326千円となりました。

なお、当社グループの事業セグメントは、動物病院事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載は省略しております。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は5,489,271千円（前連結会計年度末に比べ36,947千円の増加）となりました。

流動資産は945,146千円（前連結会計年度末に比べ94,920千円の減少）となりました。その主な要因は、現金及び預金が122,929千円減少したこと等によるものであります。

固定資産は4,544,124千円（前連結会計年度末に比べ131,868千円の増加）となりました。その主な要因は、のれんが110,249千円、繰延税金資産が48,396千円、それぞれ減少した一方、建物及び構築物が140,664千円、土地が130,310千円、それぞれ増加したことによるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は3,659,141千円（前連結会計年度末に比べ273,208千円の減少）となりました。

流動負債は1,083,596千円（前連結会計年度末に比べ134,447千円の減少）となりました。その主な要因は、短期借入金が50,000千円、未払法人税等が102,409千円、未払消費税等が49,090千円それぞれ減少したことによるものであります。

固定負債は2,575,544千円（前連結会計年度末に比べ138,761千円の減少）となりました。その主な要因は、長期借入金が135,391千円減少したことによるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は1,830,130千円（前連結会計年度末に比べ310,156千円の増加）となりました。この主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益310,326千円の計上に伴う利益剰余金の増加であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年6月期の連結業績予想につきましては、本日開示いたしました「東京証券取引所グロース市場への上場に伴う当社決算情報等のお知らせ」をご参照ください。なお、上記業績予想数値は本日現在において入手可能な情報に基づき判断したものであり、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	690,142	567,213
売掛金	198,677	243,715
商品	84,884	74,731
その他	67,489	61,033
貸倒引当金	△1,127	△1,547
流動資産合計	1,040,067	945,146
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	729,679	870,344
工具、器具及び備品（純額）	202,606	233,662
土地	1,490,848	1,621,158
リース資産（純額）	18,744	12,678
その他（純額）	1,905	1,466
有形固定資産合計	2,443,784	2,739,310
無形固定資産		
のれん	1,618,067	1,507,818
ソフトウェア仮勘定	90,035	91,355
その他	5,891	5,022
無形固定資産合計	1,713,993	1,604,196
投資その他の資産		
関係会社株式	25,612	28,349
長期前払費用	45,144	41,619
差入保証金	59,128	55,416
繰延税金資産	119,300	70,904
その他	5,291	4,327
投資その他の資産合計	254,477	200,617
固定資産合計	4,412,256	4,544,124
資産合計	5,452,324	5,489,271

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	82,712	98,024
短期借入金	150,000	100,000
1年内返済予定の長期借入金	454,909	441,865
リース債務	14,232	13,757
未払金	224,061	285,708
未払消費税等	98,953	49,862
未払法人税等	149,192	46,783
賞与引当金	16,863	—
その他	27,119	47,594
流動負債合計	1,218,044	1,083,596
固定負債		
長期借入金	2,587,666	2,452,275
リース債務	20,502	10,659
資産除去債務	99,391	101,400
繰延税金負債	2,289	3,532
その他	4,456	7,677
固定負債合計	2,714,306	2,575,544
負債合計	3,932,350	3,659,141
純資産の部		
株主資本		
資本金	90,000	90,000
資本剰余金	2,561,287	2,561,287
利益剰余金	△881,484	△571,157
自己株式	△250,000	△250,000
株主資本合計	1,519,803	1,830,130
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	170	—
その他の包括利益累計額合計	170	—
純資産合計	1,519,974	1,830,130
負債純資産合計	5,452,324	5,489,271

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第 3 四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第 3 四半期連結累計期間 (自 2023年 7 月 1 日 至 2024年 3 月 31 日)
売上高	3,523,301
売上原価	2,620,665
売上総利益	902,636
販売費及び一般管理費	386,399
営業利益	516,236
営業外収益	
受取利息	4
受取配当金	2
受取販売奨励金	9,592
その他	3,254
営業外収益合計	12,853
営業外費用	
支払利息	11,158
資金調達費用	5,184
持分法による投資損失	2,953
その他	1,774
営業外費用合計	21,071
経常利益	508,018
特別利益	
受取補償金	22,447
特別利益合計	22,447
特別損失	
固定資産除却損	1,436
特別損失合計	1,436
税金等調整前四半期純利益	529,029
法人税、住民税及び事業税	168,976
法人税等調整額	49,726
法人税等合計	218,702
四半期純利益	310,326
非支配株主に帰属する四半期純利益	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	310,326

(四半期連結包括利益計算書)

(第 3 四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第 3 四半期連結累計期間 (自 2023年 7 月 1 日 至 2024年 3 月 31 日)
四半期純利益	310,326
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	△170
その他の包括利益合計	△170
四半期包括利益	310,156
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	310,156
非支配株主に係る四半期包括利益	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。